

子どもの言動の背後にある思いに寄り添う

自分の意見や考えに固執し、相手の話を聴こうとしない子どもがいたとします。なぜ、このような態度をとるのでしょうか。その子どもの言動の背景には何があるのでしょうか。例えば、次のような質問をして(もちろん答えは無理強いしません)、その子どもをより深く知る必要があります。

- 自分は集団に必要とされていると感じているか？ ○周囲から自分は受け入れられていると感じているか？
- 自分の力を発揮できていると感じているか？ ○自分は集団から期待されていると感じているか？
- 自信をもって発言や行動ができているか？ ○これから何かに挑戦しようという意欲をもってしているか？ など

どの子どもの言動にも、そのような言動をとる(時にはとらざるを得ない)理由があります。そのことを踏まえて子どもの話を聴くこと、言動の背後にある思いに寄り添うことこそ「傾聴・受容」であると考えます。

2019年8月

初任者研修参加者の声

8月の初任者研修「児童生徒理解について」「信頼関係づくりについて」「不登校の対応について」で支持的風土の醸成(「傾聴・受容」)をとりあげました。アンケートから、まず教師である自分が変わりたいという強い思いや子どもとともによりよい集団を創るのだという決意がひしひしと伝わってきました。初任者の先生方、是非、「今後やってみたい! やってみたい!」ことを自校の先生方に積極的に語っててください。新たな気づきやアドバイスを得ることができます。 応援しています。

子どもたちの行動や言動の裏にある思いを想像し、傾聴していく姿勢を大事にしようと思いました。

私の学級は「人の話を聴く」ということの意識が低いです。だから、今回の研修で学んだ聴き方を、まず教師である自分が手本となり実践し、子どもたちに伝えていきたいと思っています。学級に「うめのかさ」の掲示をしていこうと思います。

「うめのかさ」

- うなづく
- 目を見る
- 身体を向ける
- 最後まで聴く

出典:「社会性と情動の学習」(SEL-8S) ミネルヴァ書局

私は子どもたちの話をたくさん聞いていると自分自身で思っていた。しかし、今日の研修で、考えの甘さを実感した。よかれと思って自己開示をしてきたが、子どもが求めていることは、教師のことを聞くことではなく「私の話を聴いて」ということなのかもしれない。子どもの言葉の背景をみとれるようになりたいと思った。

子どもの話をしっかり心と身体を向けて聴くことの大切さを改めて実感しました。私が子どもの話をしっかり聴くことで、子どもが聴いてもらえた喜びを感じ、他の人の話をよく聴く聴き手になるかもしれないと思いました。

子どもたちに、そして保護者に寄り添いたいと強く思いました。その子に関わる環境も大事にしたいと感じました。子どもたちに学校に喜んで来てもらえるよう努力します。

自分を見つめ直すよい機会となりました。子どもが相談しにきた時に何を担任に伝えたいのか、子どもが話しやすい雰囲気を出すことができていたか、振り返ってみると上手くできていなかったと感じました。子どもの顔色や変化をもっとよくみて、話しやすい雰囲気や学級全体で何でも受け入れられる風土をつくっていききたいと思っています。

初任者研修アンケートより

お知らせ(学校人事課より)

支持的風土だより「テロワール」を教員採用のTwitter「新潟市で先生になろう!」で発信しています。Twitterでは、「テロワール」や働き方改革等教育委員会各課の取組はもちろん、初任者研修での新採用の先生方の一生懸命な姿等を紹介しています。今後、さらに、内容を拡充していく予定です。是非、ご覧いただくとともに、教員を志す多くの方にお知らせください。

URL: https://twitter.com/kyousai_ngtcity

検索キーワード: 新潟市で先生になろう!

次号は、「子ども同士の『傾聴』」を紹介します